



防災教育について

校長 岩本 守

9月1日は関東大震災を忘れないために「防災の日」と定め、各所で防災訓練等が行われるようになりました。1923年(大正12)9月1日11時58分、相模湾北部を震源とする海溝型の巨大地震が発生しました。地震そのものの規模は最大級とは言えませんが、人口密度の高い地域と、火災により観測史上最大規模の死者14万人、現在の貨幣価値に換算して約320兆円という甚大な被害をもたらしました。本校は新型コロナウイルス感染予防の関係で実施できていなかった全校避難訓練を8月31日に実施しました。

また、本校は毎年10月の第2週土曜日に、防災教育と地域連携の一環として、地域合同防災訓練を実施し、1000人程度の大規模な訓練を実施しています。今年は新型コロナウイルス感染予防のため、来年度に延期することになりました。しかし、1年生は自分で自分の命を守る力・2年生は仲間と共に、3年生は地域のリーダーとして人々の命を守るスキルと心を育てたいと考え、総合的な学習の時間で防災教育を進めています。



合同避難訓練と昨年の防災教育
バリアフリーの体験学習のシーン

【本校の防災教育について】本校実践発表論文より

平成25年から続く、地域合同防災訓練は地域住民約1000名が参加する大規模な合同避難訓練である。24の自治会の人達が中心となり運営をし、そこに児童、生徒が参加し、一緒に行う避難訓練である。

会場は隔年により学区の小学校と中学校という輪番制で変わり、小中合同で防災訓練を実施するなど小中の発達段階に応じ一貫した訓練ができるという特徴がある。

しかし、地域合同防災訓練は避難訓練という色合いが強く、また、保護者の関心も薄く、参加率も低かった。地域住民から小中合同で実施する上では高い評価を得ていたが、訓練の域を超えることがなく、単発的な行事で終わっていた。これらの課題を解決し、この行事を通して社会に開かれた教育課程の実現を目指すように教育改革を進めていった。

【総合的な学習の時間で「共生」の心を育てる】

本校の学校教育目標は「笑顔・熱中・思いやり・そして命を大切に」であったが、その一部を変え、「笑顔・熱中・思いやり、そして共に歩む東部中生」にした。

学校教育目標に「共に歩む東部中生」を付け加えたのは、これからの変化の激しい社会の中で生徒達に生き抜く力として「共生」の力を身につけて欲しいと考えたからである。「共生」とは広く周りの人を理解し、共に力を合わせ伸びていこうとする力であり、身近なところでは「友達と共に、家族と共に、地域と共に

歩んでいける力」を育てたいと考えた。

この目標を達成するために、すべての教育活動を通して学級経営を母体にした、人間関係調整能力育成を図ることを重点にした仲間づくりに取り組むこと、総合的な学習の時間の目標を「共生の力の育成」とし、各学年の学習内容に8時間の防災学習を組み入れた。

【防災教育の実践】

目標

1年生から3年生の発達段階に応じて「命の大切さ」「地域と共に歩む」を目標に学び、自主的に行動できる生徒の育成をする。

<防災教育のねらい>

- ① 災害時における危険を認識し、日常的な備えを行うとともに、状況に応じた確かな判断の下に、自らの命を守り抜くため「主体的に行動する態度」を育成する。
- ② 災害発生時及び事後に、復旧・復興を支えるための支援者となるよう、進んで他の人々や集団、地域の安全に役立つことができるようにする。
- ③ 自然災害の発生メカニズムをはじめとして、地域の自然環境、災害や防災についての基礎的・基本的事項が理解できるようにする。

<昨年の実践>今年度は規模を縮小して取り組んでいます。

昨年6月に災害の危険性の確率と今後の対応方法について学校安全教育研究所教授矢崎良明先生から講演をいただき、生徒への課題意識を持たせた。保護者・地域にも公開し、自治会長さんも参加していただいた。その後、学年の発達段階を考慮し、以下のように学年毎のテーマを決めて学習を進めた。

<1年生> 自助の力の育成を目指す。

地震発生メカニズムと対応策を知る。身近なところの危険と対応方法を家族とともに調べ考える。

保護者と共に防災教育に取り組むことで、防災についての意識を育てると共に、地域合同防災訓練への参加意識を高め、そこから地域コミュニティへの参加意識を育てる。

(学習内容)

- ・大地震のメカニズムとその対応方法を理解する。
- ・家の中を含めた身近な危険と対応方法を保護者と共に調べる。夏休みに保護者と共に調べることで、合同防災訓練参加への保護者への意識づけのねらいもある。
- ・調べたことをプレゼンする力を育てる。

<2年生> 共助の力の育成を目指す。

家族や周りの人と共に力を合わせ命を守る力を育てる。特にバリアフリーについて学習を行う。

(学習内容)

- ・バリアフリーについての学習、共に生きることとはどのようなことか、調べ考える。
- ・車椅子体験・妊婦体験・老人体験・アイマスク体験・仮設トイレ・仮設ベッド・間仕切り作成・土嚢作り
ロープワーク制作

<3年生> 公助の力の育成を目指す。

地域の一員として共に力を合わせ命を守ろうとする力を育てる。特に有事の際には、自分たちで地域住民の命を守る心とスキルを育てる。

(学習内容)

避難所運営ゲーム・避難所設営・AED指導・救急法応急手当体験・簡易かまど作り・炊き出し。



<まとめ>

地域合同防災訓練を通じた社会に開かれた教育課程の実践、地域を支える人材の育成、そして未来に生きる生徒の共生の力の育成、これらの取り組みはまだまだ始まったばかりである。地域住民と保護者と学校がお互いの願いや悩みを共有し、また、目標を共通のものにすることが大切と考える。しかしそこは時間をかけた丁寧な取り組みが必要であり、定着するには時間がかかる。しかし価値あることであると思う。取り組みの中でいくつかの課題も見えてきている。課題を整理し、改善策を立てながら、無理なく継続的な特色ある取り組みにするために、学校がその推進力となり、これからは実践を重ねていきたい。